

厚生福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写・複製・転載を禁じます。
©時事通信社2018
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

連載	2
医療・介護経営の現状と課題②	
17年実調に対する関係方面の見解	
中央省庁ニュース	8
障害児保育、交付税拡充＝受け入れ実態踏まえ算定／婦人相談員の手当増額へ＝担い手確保に向け／小型家電、五輪向け回収強化＝メダルに再利用、箱増設へ	
進言(京大名誉教授・滋賀県病院事業庁長)	9
トピックス	10
薬局の業態変更、うまくいく？	
今国会で成立を	
アクセシブルデザインの世界	11
第44回 電話リレーサービス	
インタビュールーム	12
学会・医療情報	13
18年度厚生・労働・環境関係予算①	14
福島県 川崎市 京都府	
私たちの工夫	17
ニュースフラッシュ	18
支援未実施の504人も対象に／民間寄付で貧困対策基金／移動子育てサロンを開設／子育て世代にPR冊子／全中学生に認知症サポーター講座／医薬基盤研究所と協定／健康影響、本格調査へ／教員の過労死ライン超ゼロに ほか	

かさぶたの効用

私たちの事業体の一つである社会福祉法人は、今年の春で創立43年を迎える。当然、創立時からの職員は高齢である。

介護の現場は定着率が悪いと言われるが、私を含めて古い職員も結構多くいる。定年後も同じような仕事を担っている職員もいるが、理事経験者の我々は「かさぶた部隊」と自称している。

かさぶたは、傷口を保護しながら新しい組織が再生するのを待っている。

私たちは本部機能の運営にも関わるが、直接現場を担っている職員の後ろ盾となって職員の悩みを聞いたり、行き詰っている職員の問題解決を手伝ったり、理念を確認し合ったりして、職員一人

社会福祉法人新生会
名誉理事 長・石原美智子



ひとりが元気に明るく良いケアを担える場づくりができるように心掛けています。

幾つかの施設を立ち上げたり、多くの活動を実践してきたりした経験は、こんなときにとっても役立つものである。また、肩の荷が下りた立場になるとできることも多くある。ちょうど、子育てよりも孫育ての方が楽しい、ということに似ているかもしれない。

組織とは、古代ローマの歴史に学ぶまでもなく、常にメンテナンスをを行わなければ生き物のごとく腐敗しやすいもの。仕事の最前線を担っている職員の安定度が、質と直接関係するのは当然の理である。

老後がこんなに楽しいとは、実は思わなかった。ちよつとしたアドバイスで職員が成長していく姿、ギスギスしていたグループに問題点を解決するコツを伝授して穏やかなチームに変化していくさまなどを見ると、本当に今までの経験が生きていくうれしさを感じる。

我々かさぶた部隊はお互いにその成果(?)を茶飲み話のように確認し合いながら、小さな現場の変化を楽しんでいるのである。

正職からパートに、そしてボランティアに、そしていつの間にか利用者になっていく、こんなケースは私たちの職場には珍しくない。

かさぶた部隊もいつかは利用者になって、自分の老いの姿から職員が何かを学んでくれることを期待しながらケアを受けていきたいものだ。